

避難所情報充実と避難計画支援システム構築（これからのまびケア）

応募チーム名：チーム「まびケア」運用チーム 自治体：倉敷市

（特徴）

平成 30 年豪雨で甚大な被害を受けた倉敷市真備エリアで、被災された方々が自ら必要な情報を入手し自助・共助を高めようとする点に「まびケア」の特徴がある。被災地でボランティアが収集したデータを加工した上で地図上にマッピングすることで、被災状況や物資配布場所、コンビニや薬局の営業情報など刻一刻と変化する



被災地で求められる情報をリアルタイムに近い形で発信し続けた意義は大きい。多様なアクターが災害直後から今日の復旧復興に至るまで協働し、きめ細やかな対応を展開する柔軟さと行動力は筆すべきで、これまで尽力されてきた皆様に敬意を評する。災害時から平時への運用へとシフトする今後の展開でも、さらなるアイデアを取り入れることで全国へのモデルケースとなることが期待できる。

（アドバイス）

1. ターゲットユーザーの明確化

利用対象者は被災市民全般とするのか、あるいは保健師や民生委員、ロジスティクス関連事業者など直接被災者に接する機会が多い方とするのか。ターゲットを明確化あるいは分類して、当事者目線でプラットフォームをつくることで、使ってもらえる「まびケア」を目指すことがステップアップに求められると思います。

2. 平時の活用法のためのアイデアと持続的運用のためのモデル

大規模災害発生後、即興的に多様なツールが開発・運用されますが、それらの長期的運営は災害関連プラットフォームに共通する課題です。平時運用に関する議論を継続し、「まびケア」を持続可能な災害関連プラットフォームの一事例として成長させていただければと期待します。そのためには、ボランティアだけではなく事業として成り立っていくシステムの仕組みの検討も求められると考えます。

3. 他地域への応用可能性の検討

「まびケア」を成功事例として他地域への横展開を検討していただければと思います。災害リスクの高い他地域と意見交換や、災害の教訓の伝承も必要と考えます。例えば水害時にどのような手順でどのような情報を誰と連携して発信すべきかなどをリスト化しオープンデータとして展開することも一案かと思います。

4. 災害時の個人情報の取り扱い（倉敷市へのお願いも含みます）

発表資料（24 ページ）に平時と緊急時の対応の相違点がまとめられていますが、これを元にさらに机上演習を行えばどうすればワークするか、各視点でテストしながら進めることも大切ではないかと思います。災害緊急時には人命最優先での意思決定や指揮命令系統の短縮などの判断が必要で、これらもシミュレーションできるシステムが上記の机上演習の際の基本方針として、必要かと思います。この基本方針は平時の場合の優先順位と違う可能性があるため、平時からの合意形成をしておくことも必要です。また、個人情報の取り扱いについても市役所との連携のもと情報公開を可能とするレイヤーの事前確認や、被災された方への情報公開同意方法に関する手順やツールの確認を進めることも必要と考えます。

5. 活動計画の更新と実行（倉敷市へのお願いも含みます）

倉敷市の復旧復興とその先の平時運用への発展に合わせた具体的な活動・運用計画の作成と、関連アクター間での共有が連携体制の良さを発揮して必要と考えます。発表資料にはアイデア実現までの流れが掲載されていますが、それぞれのステップでの目的や手順、関連アクターを整理した上で一つずつ進めていくことが、持続的「まびケア」実現の一助にもなるかと思います。